



# 都市計画と民主主義

21世紀のまちづくりが求める市民像と社会像

主催

早稲田大学まちづくりシンポジウム実行委員会

共催

早稲田都市計画フォーラム

早稲田大学専門学校

早稲田大学理工学総合研究センター・参加のまちづくりプロジェクト研究室

後援

日本都市計画学会

日本都市計画家協会

稻門市長会

稻門町村長会

# 目 次

はじめに	1
シンポジウム概要	4
会場案内図	8
ウェルカム・パーティ、懇親会 会場案内図	10

## 第7回 公開シンポジウム 1日目 7月2日（金）

10：00～16：30 (12：30～13：30昼食休憩)		
A-1セッション 「参加のために～意識と情報の共有化～」		
パネリスト	クラウディア・バダーノ（アルゼンチン／都市計画国際センター実行委員） 岡田順三（建築家・プランナー） 花崎摶（演劇ワークショップネットワーク）	12 18 24
コメンテーター	早田宰（早稲田大学社会科学部）	30
コーディネーター	木下勇（千葉大学園芸学部） 昌子住江（関東学院大学工学部）	31 32
B-1セッション 「まちづくりにおける自治組織とNPO」		
事例発表者	シェリル・パークー（米国・サンフランシスコ／サウス・オブ・マーケット財団） イエンス・クヌーツエン（独・ブレーメン市内務局地域評議会・地域事務所部） 秋元康幸（横浜市都市計画局） 大戸徹（大戸まちづくり研究所） 川崎あや（アリスセンター） 佐藤紘毅（川崎地方自治研究センター）	36 43 52 58 63 71
討論者	名和田是彦（東京都立大学法学部） 平山洋介（神戸大学発達科学部） 山岡義典（日本NPOセンター） 饗庭伸（早稲田大学理工学部） 有賀隆（名古屋大学大学院工学研究科） 卯月盛夫（早稲田大学専門学校）	72 73 77 78 79 80
コーディネーター		

## 第7回 公開シンポジウム 2日目 7月3日（土）

10：00～17：30 (12：30～13：30昼食休憩)		
B-2セッション 「自治の都市計画における合意と決定」		
事例発表者	ライス・デービス（英国／計画審査庁） 今井一（ジャーナリスト） 金田孝之（横浜市都市計画局） 辻利夫（東京ランボ） 野口和雄（都市プランナー） 倉田直道（アーバンハーツ都市建築研究所）、シェリル・パークー（前掲）	84 86 92 99 104 111
討論者	五十嵐敬喜（法政大学法学部） 小林重敬（横浜国立大学工学部） 佐藤滋（早稲田大学理工学部） 内田勝一（早稲田大学法学部） 村林正次（住信基礎研究所） 若林祥文（埼玉県都市住宅部）	115 116 120 121 122 123
10：00～12：30 (12：30～13：30昼食休憩)		
A-2セッション 「居住運動と参加」		
パネリスト	金秀顕（韓国／ソウル市政開発研究院） 伊勢崎賢治（笹川平和財団・政策研究大学院大学） 穂坂光彦（日本福祉大学経済学部） 麦倉哲（東京女学館短期大学） 内田雄造（東洋大学工学部） 藤井敏信（東洋大学国際地域学部）	126 130 131 135 141 142
コメンテーター		
コーディネーター		

13:30~16:30

A-3セッション 「まちは誰のものか～外国人居住から考える～」

パネリスト	青木政夫（群馬県大泉町国際交流課）	146
	稻葉佳子（ジオ・プランニング）	152
	三浦知人（川崎市ふれあい館）	156
コメンテーター	姜 聲夢（韓国／映像作家）	160
コーディネーター	芹沢高志（P3art and environment）	161
	渡戸一郎（明星大学）	162

18:30~21:00 まちでウェルカム・パーティ（早稲田大学周辺商店街にて）

**第5回 早稲田メイヤーズ会議 7月4日（日）**

**「歴史的転換点に立って都市を展望する」**

12:00~12:15 シンポジウム実行委員長あいさつ 戸沼幸市（早稲田大学専門学校校長・理工学部教授）  
早稲田大学副総長あいさつ 寄本勝美（早稲田大学政治経済学部教授）

12:15~12:50 セッション報告

13:00~14:30 基調講演 「市民まちづくりとデモクラシー」  
アン・ヴェルネ・ムドン（米国／ワシントン大学建築・都市計画学部教授）

169

14:40~17:30

ディスカッション1 「自治の都市づくりと市民」

ディスカッション2 「都市再建のビジョン」

北川正恭（三重県知事）	172
松浦幸雄（群馬県高崎市長・稻門市長会代表幹事）	173
上原公子（東京都国立市長）	174
管家一郎（福島県会津若松市長）	179
河内山哲朗（山口県柳井市長）	180
竹内謙（神奈川県鎌倉市長）	181
平林伊三郎（長野県穂高町長）	182
矢崎和広（長野県茅野市長）	186
コーディネーター 寄本勝美（早稲田大学副総長・政治経済学部）	192
倉田直道（早稲田都市計画フォーラム・アーバンハウス都市建築研究所）	193

18:00~20:00 懇親会（会場：大隈ガーデンハウス）

**早稲田大学都市計画系研究室紹介**

建築学科	戸沼研究室	196
	佐藤研究室	202
	後藤研究室	210
土木工学科	浅野研究室	216
	中川研究室	220

**編集後記**

**企画委員**

# 都市計画と民主主義

## 21世紀のまちづくりが求める市民像と社会像

21世紀を前に、私たちの社会はさまざまな見直しを迫られている。かつて20世紀の奇跡と称賛された日本の高度経済成長もバブルの破綻によって幕を閉じ、国内では膨大な赤字国債を抱えて公共事業の根本的な見直しに迫られ、海外からはグローバルスタンダードに対応した規制緩和や構造改革が求められている。一方、都市計画の実務の方策や手法は、従来の区画整理事業や再開発事業を中心とした□□基盤整備型のハード中心の展開から、既存のストックを活かした修復型の整備へと、民間活力の利用や市民参加を前提としたトータルなまちづくりの模索へ移行しつつある。そして、まちづくりに係わる行政施策においても、マスター・プランへの参加、地方分権の提唱、住民投票の展開、NPO法の制定、情報公開法案の成立等、身近な地域への市民の関心の高まりを背景に行政への参加を促す方向がみてとれる。ところで、こうした状況の中で21世紀のまちづくりを考える場合、急速な地域変化の中にあって、私たちが目標あるいは前提とすべき「都市型社会」の市民像や社会像が意外なほど不明確であることに気づかざるを得ない。そこで今回の国際シンポジウムでは、広い視野に立って「都市計画と民主主義」の意味を再考しつつ、国内外から多数のゲストを招いて、Aセッションにおいては、市民運動論的視点からの議論、Bセッションにおいては、社会制度論的視点からの議論をそれぞれ展開していきたい。また、本年で5回目を迎えるメイヤーズ会議においては、基調講演にはワシントン大学よりアン・ムドン氏をお迎えし、アメリカ・シアトル市の取り組みをふまえて「市民まちづくりとデモクラシー」と題してご講演をいただく。パネルディスカッションでは各地で活躍している知事、市長、町長を招いて、地方政治的視点からの議論を展開していきたい。

## 第7回公開シンポジウム

### 7月2日（金）10：00～16：30 A1セッション 「参加のために～意識と情報の共有化～」

まちづくりにおいて、価値観や利害関係を異にする多様な人々が合意に至る困難さは常にわれわれが体験するところである。これを実現するには、まず情報と意識の共有化が欠かせない。今回、こうした共有化の試みとして、さまざまに展開されている「ガリバーマッピング」および「演劇ワークショップ」といった手法のさらなる可能性を探るとともに、これらを活用しつつ計画づくりに至る過程を、ラテンアメリカの「都市計画国際ビエンナーレ」に学びながら、合意へのプロセスを多角的に論じたい。

### 7月2日（金）10：00～17：30 B1セッション 「まちづくりにおける自治組織とNPO」

1998年特定非営利活動促進法（NPO法）が制定され、まちづくり分野における市民主体の活動は、今後大きく展開されることが予想される。しかし一方、日本では伝統的に近隣の町会や自治会が存在し、その重要性は阪神淡路大震災の教訓として指摘されている。そしてまちづくりの現物では、町会・自治会、協議会、市民グループ等の各組織が対立する状況も見られる。そこで21世紀の日本型市民社会における参加と自治の組織と仕組みはいかにあらるべきか、また地域社会や地域経済に果たす市民活動やNPOネットワークの役割はどのようなものか、これらの点についてアメリカ・ドイツ・イタリア等の海外事例と比較しながら議論していく。

### 7月3日（土）10：00～12：30 A2セッション 「居住運動と参加」

発展途上国における大都市圏での急速な人口増加は、スラムの拡大をもたらしている。一方先進諸国でも大都市においてホームレスが急増している。いずれも広い意味での開発に起因する現象といえるが、すでに地域が一定の居住集積をもって成立している場合・開発は既存の社会的関係の解体につながることが多い。特にその影響は社会的弱者に厳しく、強制移住、立ち退き等の厳しい選択を迫ることになる。住み続けられる開発を求める彼等の闘争は、共生意志に基づいた居住権をもとめるたたかいでもある。国内外のさまざまな事例、経験の紹介を通して、生活総体を組み込んだ住民の組織化の状況、マイクロクレジットなどエンパワーメントの展開、居住運動を通したまちづくりのあり方について議論していきたい。

7月3日（土）13：30～16：30 A3セッション 「まちは誰のものか～外国人居住から考える～」

外国人居住が今、リアルだ。そこには居住文化の問題があり、政治・経済システムの問題があり、日本にとっての他者の問題がある。根底には“まちは誰のものか”、或いは“市民とは誰か”という、都市にとっての本質的な問い合わせが横たわっている。これらの問い合わせは決して他人事ではなく、ボーダレス化する現代そして未来を生きる我々自身に突きつけられたものだ。本セッションでは、川崎市、新宿区大久保、群馬県大泉町といった地域におけるまちづくりへの外国人住民の参加や、地元住民による多文化共生への取組みを通じて、21世紀の日本における開かれた市民社会のあり方、その可能性を探っていきたい。

7月3日（土）10：00～17：30 B2セッション 「自治の都市計画における合意と決定」

明治時代に導入された日本の近代都市計画制度はすでに多くの点で制度疲労をおこし、地方分権、情報公開、NPOという新しい時代の流れを迎えて、抜本的な改革が求められている。特にこの数年公共事業に対する住民投票の請求が増えているのは、現状の計画決定制度に対する市民からの痛烈な批判と見ることができる。またマスタープランでは、マクロの都市計画とミクロのまちづくりの整合性がとりにくい状況が出てきている。そこで、この30年間先駆的市町村と市民が共働しながら積み上げできた「日本型まちづくり」の哲学とその運動の成果、そして日本、アメリカ、イギリスの事例を十分踏まえて、誰が何をどのようにして決めていくのかという、「合意と決定」の制度と仕組に焦点をあてて、今後の都市計画の変革の方向について討論と提言を行う。

## 第5回早稲田メイヤーズ会議

# 歴史的転換点に立って、都市を展望する

1990年代はバブル経済崩壊・環境問題の深刻化等、様々な分野において「歴史的転換」とも言うべき時代であった。都市計画においても1992年の都市計画法、1994年の地方自治法の改正は、市民参加と地方分権の流れを生み出した。そしていま、都市計画法の大幅改正を含む「分権自治」の大改革が目前にせまっている。地方自治と都市づくりはこの世紀末激動の中にあり、それぞれの都市で地方自治と市民、そして国家の関係の再構築と都市ビジョンの再建が急務とされている。今回のメイヤーズ会議は、この歴史的転換点に立って、我が国の21世紀の都市計画と民主主義の課題を明確にし、その将来の方向を展望したい。

7月4日（日）13：00～14：30

## 基調講演 「市民まちづくりとデモクラシー」

ワシントン湖の環境保全、歴史的地区の保全・再生、都市マスタープランや地区計画の策定プロセスの市民参加など、積極的な市民まちづくりが進められている米国シアトル市における経験を中心に、民主社会におけるこれから市民まちづくりの課題とその方向を展望する。

7月4日（日）14：40～17：30

## ディスカッション1 「自治の都市づくりと市民」

## ディスカッション2 「都市再建のビジョン」